

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	山口県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりついわくにそうごうしえんがっこう 山口県立岩国総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつたぶせそうごうしえんがっこう 山口県立田布施総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつほうふそうごうしえんがっこう 山口県立防府総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつやまぐちみなみそうごうしえんがっこう 山口県立山口南総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつうべそうごうしえんがっこう 山口県立宇部総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつしもぎそうごうしえんがっこう 山口県立下関総合支援学校

※協力校（モデル校の取組をサポートする学校）

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつしゅうなんそうごうしえんがっこう 山口県立周南総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつとくやまそうごうしえんがっこう 山口県立徳山総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつやまぐちそうごうしえんがっこう 山口県立山口総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつしもぎみなみそうごうしえんがっこう 山口県立下関南総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつとようらそうごうしえんがっこう 山口県立豊浦総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	やまぐちけんりつはぎそうごうしえんがっこう 山口県立萩総合支援学校

2 研究課題

特別支援学校生徒の自立と社会参加を目指したキャリア教育・就労支援を充実させるため、企業や関係機関等との協働による「特別支援学校技能検定」の実践研究を行う。

3 研究の概要

近年、障害者を雇用する企業は、サービス業等の割合が高くなっており、職場で求められる能力は、基本的な生活習慣の確立や就労に対する意義の理解に加え、接遇マナーやコミュニケーション能力等が求められている。

このことを踏まえ、本事業においては、社会状況の変化や卒業生の就職状況、企業等が求めるニーズ等へ対応した職業教育を充実するため、「特別支援学校キャリア教育・就労支援ネットワーク会議（以下「就労支援ネットワーク会議」という）」を設置し、職業に関する専門的な知識・技能の習得を図る作業種目や、企業等との連携・協働による職業教育の展開等について検討する。

また、本県独自の職業教育プログラム「特別支援学校技能検定」（以下「技能検定」という。）を開発し、生徒の学習意欲の向上や就労を目指すためのスキルの獲得、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、各学校の特色を生かしつつ指導内容・方法等の統一化を検討するなど、教員の専門性の向上に努め、県全体の職業教育の一層の充実を図る。

4 研究の成果

研究の成果として、特別支援学校間の連携、教員の繋がりが強化されたこと、技能検定を活用して、教育課程の見直しや授業内容の改善等の意識を向上させることができたことである。

① 「特別支援学校就労支援ネットワーク会議」において、社会状況の変化や卒業生の就職状況、企業等が求めるニーズ等へ対応した職業教育の充実について提言いただき、新たな職業学科への改編や普通科職業コースの設置、特別支援学校技能検定の研究開発、小・中・高等部の一貫した系統性あるキャリア教育の推進等、今後の県の施策推進について協議することができた。

② 技能検定各種目別検討協議会

企業や福祉サービス事業所、関係団体等の協力のもと、5分野（喫茶サービス、清掃、介護、食品加工、流通・サービス）の検討協議会を実施し、検定の実施内容やマニュアル、評価表について研究することができた。

③ 特別支援学校技能検定

「喫茶サービス」部門の技能検定を2月、「清掃」部門のプレ技能検定を12月に実施することができた。技能検定への参加を通じて、生徒だけでなく、生徒の真剣な表情を見守る保護者や引率教員の就労に向けた意識の向上を図ることができた。

特に、技能検定実施に必要なマニュアルや評価表を検討していく過程で、学習場面での指導目標や指導内容、指導方法等が明確になり、生徒の学習意欲の向上を図るとともに、教員の授業改善にも大きな成果をあげることができた。

5 課題と今後の方策

- ① 社会状況の変化や卒業生の就職状況、企業等が求めるニーズ等へ対応した職業教育を充実するため、障害のある生徒一人ひとりの自立と社会参加に向けて、引き続き、医療・福祉・労働等の関係団体からなる「就労支援ネットワーク会議」において、施策推進方策等を検討する。
- ② 障害のある生徒が、様々なことにチャレンジし、自信をもって社会参加できるよう、企業等関係団体と連携した「技能検定各種目別検討協議会」により、引き続き5分野（喫茶サービス、清掃、介護、食品加工、流通・サービス）の「特別支援学校技能検定」の研究開発・充実を行う。
また、特別支援学校技能検定に参加する生徒の意識の変容や就職状況、保護者や教員の意識の変容等について検証を行う。
- ③ 他県で実施されている「技能検定」等を情報収集し、特別支援学校連絡協議会等により、技能検定の学習内容の教育課程への位置づけや指導マニュアルを活用した教員の専門性の向上、評価基準や技能検定に必要な評価表の妥当性の検証等を行う。
- ④ 小学部から中学部、高等部までの系統性あるキャリア教育を一層推進するため、特別支援学校技能検定の指導内容や指導書の活用等について、各特別支援学校教育課程検討委員会等において検討を行う。